

水稲～麦の作付体系で、稲わらの 24 年間に亘る連用が収量および水田土壌(灰色低地水田土)の理化学性などに及ぼす影響を調査した。

- 1.稲わらを連用することにより,土壌中の全炭素量および全窒素量がほぼ直線的に増加する傾向が認められた。
- 2.稲わらを連用することにより,土壌の固相率が減少した。
- 3.稲わらの長期連用による,水稲や麦の収量への悪影響は認められなかった。

キーワード：稲わら,土壌の化学性,土壌の物理性